

## I 校内研究の基本的な考え方

### ◇東二番丁小学校の校内研究で目指すもの◇

昨年度までの研究を基にし、さらに優れた授業を創造・発信し、自らの授業力を高める。

### ◇東二番丁小学校の校内研究の特色◇

1. 研究主題に基づいた授業実践
2. 授業研究のシステム化（一人一人の教師の授業力の向上）  
（「模擬授業」、「研究授業」、「授業検討会」、「授業のまとめ」の日常化）

### 1. 主体的に考える児童の育成

#### ◇研究主題◇

主体的に考える児童の育成  
— 国語科における協働的な学習を通して —

小規模校では、教師が一人一人に丁寧に接したり、固定的な関係を基に授業を進めたりするがゆえに、児童に主体性が育たないことがある。本研究主題は、新学習指導要領に合致する今日的な教育課題であるとともに、小規模校である本校に必要な授業の在り方を明らかにするものである。どの児童も自分の考えを持ち、発表し合い、互いに深め合う協働的な学習を通して、より考えを発展させることができるような学習過程を国語科において構築していく。さらに個人でも学習の振り返りを行い、考えを深めていく。これらの活動を通して、国語科のねらいを達成するとともに、協働的に学び合う児童を育てていく。

前年度は、「主体的に考える児童の育成～国語科における協働的な学習を通して～」を目指して実践をしてきた。国語科に絞って実施したことで、学年間の指導方法の関連が見えるようになり、発達段階に応じた系統的な指導の在り方についても考えることができた。1回目と2回目の児童の変容や学年ごとの成長もより見えやすくなったと言える。それにより研究テーマに迫る効果的な手だての提案がなされ、積極的に活用して成果を上げることができた。

今年度も引き続き国語科における協働的な学習の在り方について研究を深めていく。昨年度の実践から、協働的な学習はすべての単元のすべての学習場面で有効であるとは言えないということが課題として明らかになった。どのような単元で、どのような段階で、どのような協働学習を取り入れるか、十分に吟味する必要がある。今年度は国語科のねらいを達成させることを第一に考え、その上で有効な協働学習を取り入れるにはどうしたよいかさらに研究を深めていく必要がある。研究主題に対して、どのような理想の児童像を思い描くべきか、本研究を継続する中で議論を続けていきたい。そして、本校としての国語科を通した「協働的な学習」の捉えを明らかにしていきたい。

#### 「主体的に考える」とは

興味・関心を持ってよく見たり、考えたりして、自分の考えをつくりあげようとする児童の姿。自ら問題を見つけ、問題追究のために調べたり、既習事項を生かして考えたりする姿。さらに、学習の終末で自分の学習を振り返り、考えをさらに深める姿。

#### 「協働的な学習」とは

ペアやグループ、学級の仲間と共に、課題解決へと学習を進めていく学習。一人一人の学びをより高いものへと発展させるために、グループや学級全体で練り合い、深め合っていく学習。

### ◇目指す児童像◇

課題について見通しを持ち、自分の考えを発表し合い、互いに深め合うことでより考えを発展させ、自分の考えを振り返ることができる子

### ◇目指す授業像◇

#### ◇目指す児童像を具現化するための授業◇

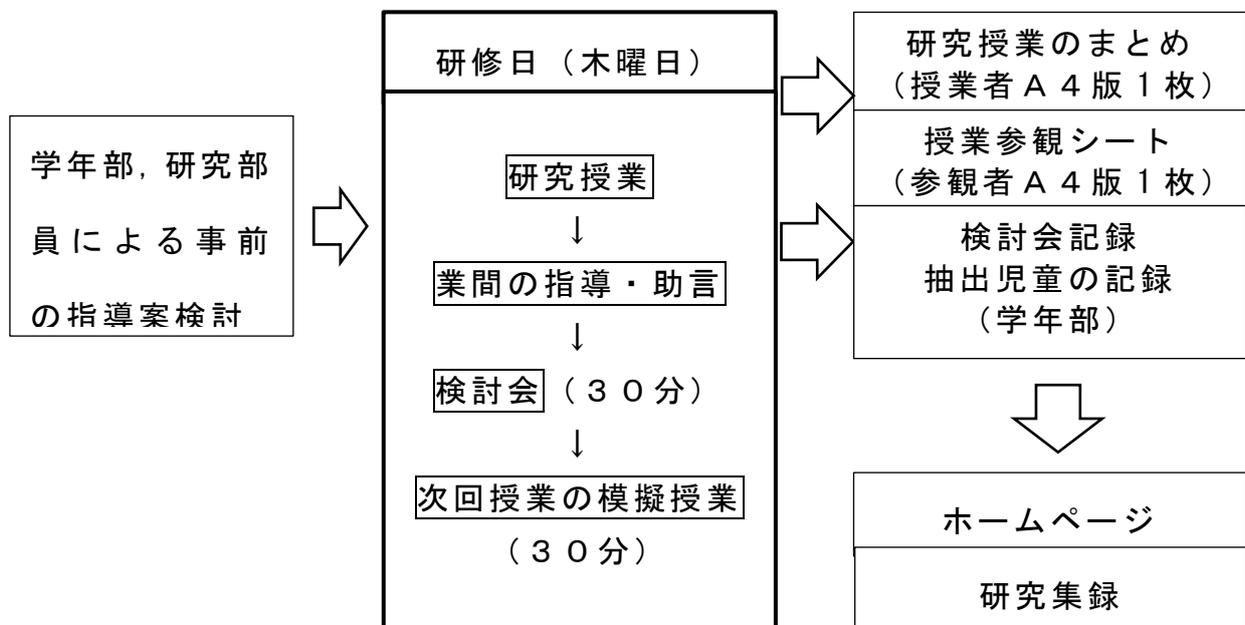
- ①学習に見通しを持つ（導入場面：見通しを持たせるための工夫）  
↓
- ②児童が自ら考える（思考場面：考えさせるための手だての工夫）  
↓
- ③児童同士が話し合い、より高い考えに発展させる  
（交流場面：練り合わせるための工夫）  
↓
- ④個人の学習を振り返り、考えを深める（再考場面：振り返りの工夫）

## 2. 授業研究のシステム化

### ◇「授業研究のシステム化」とは

「授業研究のシステム化」とは、毎週木曜日を「研修日」として、「（次回の研究授業の）模擬授業」、「研究授業」、「検討会」を行うことにより、校内の教員がお互いに授業力を高め合うための一つの方法である。

具体的には、以下のような流れで行う。



- (1) 「研究授業」「検討会」について
- ① 研究授業は、一人2回とし、研修日に計画的に行う。
  - ② 学習指導案は略案（A4裏表）。提案，指導計画，指導過程等を示す。「研究の視点」は設けず，めざす児童像に向けて「**本研究授業の提案**」と一人一人の教師の「**授業技術課題**」を明記する。
  - ③ 「検討会」は 16:00～16:30 の 30 分間，「模擬授業」は 16:30～17:00 の 30 分間で行う。
- (2) 「研究授業後」について
- ① 「検討会の記録」及び「抽出児童授業記録」は，学年部の教員がまとめる。「抽出児童授業記録」は検討会で資料として活用する。
  - ② 参観者は，「研究授業参観シート」を当日中に記入し，原本を授業者に，コピーを一部研究主任に提出する。
  - ③ 「研究授業のまとめ」は，授業者が「本研究授業の提案」，「授業技術課題」について授業の事実に基づいて具体的にまとめ，ホームページ上に公開し，多くの学校に活用していただく。
  - ④ 『研究集録』には，「研究計画」「学習指導案」「ワークシート等」「研究授業のまとめ」を入れる。
- (3) 事前の指導案検討会について
- ① 模擬授業前に学年部での事前指導案検討会を行う。日時については学年部で設定し，研究部からも参加するものとする。

## Ⅱ 補足

### 1 「本研究授業の提案」とは？

目指す児童像の具現化へ向けて，本時で提案したいことを具体的に明記する。



#### 研究主題に関わる提案

- <例> ・友達との交流を基に自分の考えを見直したり修正したりして自分の考えを深める。
- ・個人で考えたことをグループや学級の考えとして集約させるための手だてとして，ペア学習とグループでの話し合い活動を取り入れる。
  - ・調べたことをもとにして考え，グループや学級の考えを集約させるための手だてとして，シンキングツールを活用する。

※検討会で，提案についてどうだったのかを検討会で意見交換する。

### 2 一人一人の教師の「授業技術課題」とは？

自分が授業をする中で課題としている授業技術を磨くために，学習指導案に自分の「授業技術課題」を1つ明記して，検討会で意見交換する。



#### 研究主題には関わらない，個人の課題を提案

- <例> ・児童に伝わるようにはっきりとした話し方をする。
- ・指示を短くする。
  - ・児童に考えさせるために有効な発問をする。
  - ・支援を要する児童が理解できるような個別指導をする。
  - ・一目で見て分かる構造的な板書をする。
  - ・ねらいを達成させるための話し合いを組織する。 等々

### **3 「研究授業のまとめ」とは？**

自分自身の授業を振り返る。提案や授業技術課題についてどうだったのか、検討会での意見交換や「研究授業参観シート」を参考にしながら、A4版1ページにまとめる。

- 1 児童の変容について
- 2 本時の提案について
- 3 授業技術課題について
- 4 次回の研究授業へ向けて

※「研究授業のまとめ」は、ホームページ上に公開する。

## **Ⅲ 研究と関連して行う学習活動**

自分の考えを伝えることができる児童，友達の考えを聞くことができる児童を育てるためにも，研究内容と関連して以下の学習活動にも取り組ませる。

### **1 スピーチや音読の重視**

朝の会等でのスピーチや養賢学習・授業での音読・朗読・暗唱を重視する。

4月中に『話す・聞くスキル』教材を活用し，発音，発声を徹底指導する。

さらに，養賢（音読）の時間を活用し，指導を継続する。朗読朝会に向けても指導を行う。

学校行事（野外活動，修学旅行等）や朝会での代表児童の発表なども暗唱させるなど工夫をし，校内研究との連携を図りながら指導する。

### **2 「お話朝会の活用」**

お話朝会の後，話の内容を5分間で箇条書きにする。

話し手は，「今日は3つのお話をします。一つ目は，○○。二つ目は，○○・・・」

3つ中3つ書ければA，2つでB，1つ以下でCなどと評価基準を設定する。

### **3 家庭・地域との連携**

学校での取組を家庭や地域に伝え協力をいただきながらコミュニケーション力を育てる。そのために研究だよりを親向けにも発行し，研究の主旨や実践内容を知らせる。また，学校ホームページでも研究の様子を公開する。

授業参観では研究教科である国語を一度は実施し，研究の成果を保護者に示す。

## **Ⅳ 研究計画**

- 4月・・・研究全体会（校内研究の進め方・授業実践計画について）
- 5月・・・個の研究テーマの決定・研究全体会（個の研究テーマ発表会）
- 5月～7月・模擬授業・研究授業・検討会
- 夏季休業・・・学習指導案づくり・校内研究について中間まとめ
- 7月・・・個の研究中間発表会
- 9月～12月・模擬授業・研究授業・検討会
- 1月・・・個の研究発表会
- 2月・・・次年度計画
- 3月・・・研究集録作成・研究集録印刷・製本